

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	法政大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ホウセイダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	国際インターンシップ
	学部・研究科等名	グローバル教育センター
	担当教職員名・役職	福田 好朗・グローバル教育センター長
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	12
	受入企業等数	6
	受入企業等名	紀伊國屋書店、シャンティ国際ボランティア会、バベッシュ・ボヤイ大学、FPT大学、GLMi、ペイラー大学
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ,5.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ,6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,3.その他
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	協定大学や協定大学とパートナー関係の団体で実務研修を行う。実務研修の内容については、学生と受け入れ先大学担当者間で協議・調整を行う。
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	協定大学や協定大学とパートナー関係の団体で実務研修を行う。実務研修の内容については、学生と受け入れ先大学担当者間で協議・調整を行う(1-2「3.その他」と同内容)。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	9.その他
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	当該インターンシップはグローバル教育センター設置科目として、全学部の学生を対象に、授業期間外に実施している。
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年~4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	1単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	当該インターンシップはグローバル教育センター設置科目として、全学部の学生を対象に、授業期間外に実施している(2-2「9.その他」の回答と同内容)。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している,5.その他
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	海外危機管理説明会を実施し、緊急時の身の守り方について学ぶ。
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	定期的ではないが、教員がプログラムに同行する場合もある。その場合は、必要に応じて教員・学生間での面談を行っている。また、プログラム修了後に修了証および個別評価を取得し学生の成果を把握している。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	海外危機管理説明会に参加し、地域・国別の危険情報を収集すると同時に、緊急時の身の守り方を学ぶ。また、インターンシップ受け入れ先企業に関する情報および、現場実習にあたっての必要知識を収集する。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	出発前後に、自己成長測定試験を行うことで、学生の学びや変化を定性・定量の両方から測定している。また、プログラム終了後に実施する振り返りセミナーでは、前述した自己成長測定試験を活用し、講師の指導の下、振り返りを行う。他のメンバーからの意見や感想を聞く機会も数多く設けており、相互の学びにつながっている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	定期的ではないが、教員がプログラムに同行する場合もある。その場合は、必要に応じて教員・学生間での面談を行っている。また、プログラム修了後に修了証および個別評価を取得し学生の成果を把握している(3-2-3「3.その他」の回答と同内容)。
要素	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている,2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている,4.その他
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	

④	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	出発前後に、自己成長測定試験を行うことで、学生の学びや変化を定性・定量の両方から測定している。また、プログラム終了後に実施する振り返りセミナーでは、前述した自己成長測定試験を活用し、講師の指導の下、振り返りを行う。他のメンバーからの意見や感想を聞く機会も数多く設けており、相互の学びにつながっている(3-3-2の回答と同内容)。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間14日間～30日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	いずれのプログラムにおいても、連続した5日間以上の実施期間を確保している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受け入れ団体のスーパーバイザーが各学生に対し、定性・定量評価を行っている。また、同じ評価シートを使用することで、学生間の水平比較を可能にしている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/volunteer_internship/
問い合わせ先	大学等名	法政大学
	担当部署名	教学企画課
	担当者役職名	
	担当者氏名	湯山 颯太
	電話番号	03-3264-9076
	メールアドレス	gakumu@hosei.ac.jp